

呂久の歴史散歩 皇女和宮ゆかりの地と呂久の渡しをめぐる



今は瑞穂市の呂久になっている場所に、天正8年(1580)に織田信長の子の信忠によって呂久川の渡しが設けられました。この頃、信長は天下統一のため、岐阜の城から、京に近く交通の要衝である近江城に居所を移したことから、美濃と京都との交通が頻繁となって赤坂一呂久一美江寺一河渡一加納の新路線が栄えました。それが中山道となり、皇女和宮降嫁の行列も呂久から船でお渡りになりました。呂久は、水運で栄えるとともに、水害に悩まされた地域でもありました。呂久川(現揖斐川)とともにあった呂久の歴史散歩をお楽しみください。(距離 約1.8km)

神明神社
呂久川(現揖斐川)の河川改修の際に揖斐川庵川埋立記念碑が建てられた場所です。



赤門
りっぱな門構えの家は、この地域では赤門と呼ばれています。かつての呂久川はこの門のすぐ東側まで来ていました。



小簾紅園
皇女和宮降嫁の折、揖斐川(呂久川)を御座船で渡られる際、対岸に紅葉したもみじ葉の散り落ちる様子をご覧になり、それに我が身の悲哀の思いをめぐらせた感慨を歌にお詠みになりました。その場所にできたのが小簾紅園で、主碑には、「落ちていく 身と知りながら もみじ葉の 人なつかしく こがれこそれ」と和宮の歌が刻まれています。



昔の商店があった場所
呂久の渡しは、かつて山や海からの物資の交易の場として賑わい、このあたりには、菓子屋、居酒屋、紺屋、医者、竹屋、桶屋などが軒を連ねていました。



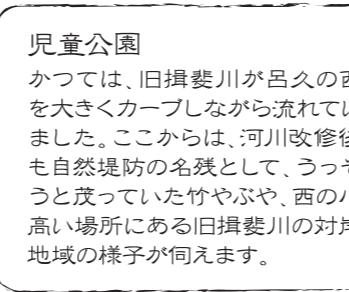
*当時の様子

大島堤防を望む
西に杭瀬川、東に揖斐川が流れる大垣藩は、両河川の氾濫に悩まされてきたことから、上流部に大島堤、前田堤、笠縫堤を築き、周辺住民は輪中と呼ばれる堤を築いて田畠や家屋を守ってきました。



白鳥神社

長い参道がつく白鳥神社は、繼体天皇の時代に大河少将が社殿を建立し、日本武尊と弟橘愛媛命を祀ったのがはじまりと言われています。境内には瑞穂市指定天然記念物の大きなイチヨウの木があります。



児童公園

かつては、旧揖斐川が呂久の西を大きくカーブしながら流れていました。ここからは、河川改修後も自然堤防の名残として、うっそつ茂っていた竹やぶや、西の小高い場所にある旧揖斐川の対岸地域の様子が伺えます。



児童公園④



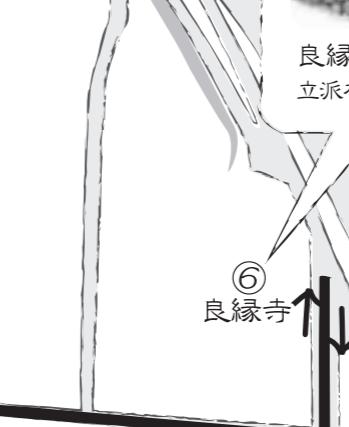
白鳥神社

⑤



良縁寺

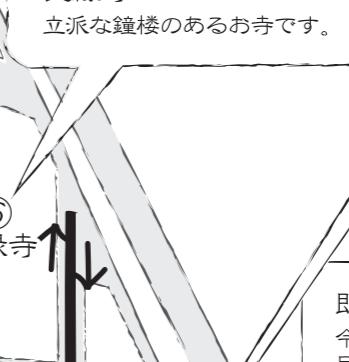
立派な鐘楼のあるお寺です。



⑥



良縁寺

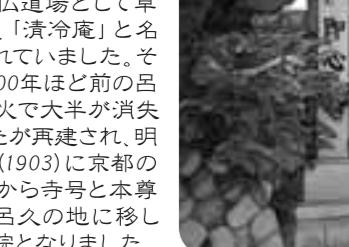


⑦



昔の石垣

集落は河川敷から徐々に高くなり、このあたりが最も高くなっています。今も残るこれら石積みは、水害から家屋をまもるためにつくられたものです。



即心院

今から250年前の昔、村民の念佛道場として草創され、「清冷庵」と名付けられていました。その後、200年ほど前の呂久の大火で大半が消失しましたが再建され、明治36年(1903)に京都の即心院から寺号と本尊などを呂久の地に移して即心院となりました。



歩き旅

企画

和宮遺跡保存会

(日本イベント企画株式会社内)